

平成 22 年度

財団法人いわき市教育文化事業団予算書  
( 抜粋 )

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

財団法人いわき市教育文化事業団

# 目 次

	ページ
・ 事 業 計 画 書 -----	1
・ 収 支 予 算 書 -----	13

# 事業計画書



## 議案第 3 号関係

### 平成22年度財団法人いわき市教育文化事業団事業計画について

平成22年度は、文化財部門における事業量が昨年度比で僅かに上向いたものの、施設部門での過去2年間のマイナスシーリングによる運営面での厳しい状況などから、当財団運営を取り巻く環境は、まだまだ厳しいものとなっております。今後とも、職員一丸となって経営の健全化に向けた取り組みをおこなうとともに、市との連携を更に深めてまいります。

文化財部門では、今日まで市内外での積極的な受注活動を行い、いわきは勿論のこと県南、相双各市町村の調査事業を受託してまいりましたが、22年度は新たに会津地区から発掘調査の依頼があり、事業を受託する予定であります。

施設部門では、現在の教育文化6施設の指定管理者のほか、新たな指定管理者施設の受託も見据え、「市民に愛され親しまれる施設づくり」をさらに推進してまいります。

特に、22年度は研修の充実を図り、当財団の有する質の高い専門性と接遇の向上および関係資格の取得に努めてまいります。

また、新たに職員一丸となり、各分野の専門性の活用を図った小学校社会教科書の副読本刊行を、出版事業として取り組んでまいります。

このほか、啓発広報事業における企画展開催や受託6施設での共同企画展開催、「あぶくま発見の旅サポート」など市内関連施設との連携、普及活用事業における出前講座の開催、出版事業における報告書や図録の刊行を通して、事業団の専門性を市民の方々にアピールするとともに、合わせて有償出前講座の開催、出版事業、施設での飲料水及びグッズ販売などの事業を積極的に行い、収益を図ってまいります。

## 1 文化財部門

### (1) 基本方針

国の景気対策の効果が地方に現れていない状況において、平成22年度の埋蔵文化財調査事業は12件、受託額は190,438千円の事業規模となる見通しであります。

主な事業のうち現地調査では、久之浜バイパス関係の試掘調査が予定される市内遺跡発掘調査、県の治山事業、市道改良事業、泉第三土地区画整理事業、民間開発による発掘調査事業を受託する予定です。他市町村の発掘調査事業は、

1町からは場整備事業関係の発掘調査の依頼を受ける見通しであります。今後も積極的に他市町村の事業受託に向け情報収集を行います。

整理報告では、緊急雇用創出事業、市内の遺跡から出土した出土品等の整理事業、泉第三土地区画整理事業等を受託する予定であります。

12件の事業のうち現地発掘調査は7事業で、本報告と概報の刊行も含まれています。遺物整理報告書作成は5事業です。報告書の刊行は3冊（市内遺跡発掘調査、白穴横穴・他、宇根尻B遺跡）を予定しています。

この他、埋蔵文化財発掘調査の成果等について、市民への啓発活動に努めてまいります。

これらの事業を実施するに当たっては、安全な作業環境と衛生環境を確保し、万全を尽くして事故防止に努めてまいります。

## （2）事業計画

### ア 試掘調査事業 1件（継続1）

試掘調査は、本調査の是非や本調査の費用積算のために調査するものです。久之浜バイパス予定地内の試掘調査や随時開発行為が発生した場合に、市の指示で試掘調査を行うものであります。

### イ 現地調査事業 6件（新規4、継続2）

泉第三土地区画整理事業の御前田A遺跡・泉町A遺跡発掘調査、市道改良事業の大場D遺跡、民間の鉄塔建設の宇根尻B遺跡、復旧治山事業餓鬼堂地区工事の餓鬼堂横穴墓群発掘調査、下郷町の明神遺跡、市内外の緊急調査事業の6件を予定しています。

### ウ 整理・報告書作成事業 5件（継続5）

白穴横穴・他の市内で発掘調査が行われた出土品の整理報告書作成、泉第三土地区画事業の神力前B遺跡の遺物整理、復旧治山事業の餓鬼堂横穴墓群の整理報告書作成、相馬市の出土品の図化、緊急雇用創出事業による文化財・民俗資料整理・分類事業の5件を予定しています。

## 2 施設部門

### （1）基本方針

いわき市アンモナイトセンター、いわき市考古資料館、いわき市立草野心平記念文学館、いわき市草野心平生家、いわき市暮らしの伝承郷、いわき市生涯学習プラザの6施設について、平成22年度も指定管理者として施設の管

理と運営にあたってまいります。運営面では厳しい状況が続いておりますが、利用者への「安全・安心の確保」、「満足いただけるサービスの提供」、「質の高い専門性の提供」など、市民ニーズを的確に捉えるとともに実施事業に対し常に自己評価を加えながら、「市民に親しまれ愛される施設づくり」を推進してまいります。特に、アンモナイトセンターでのボランティア組織の新規立ち上げなど、各施設におけるボランティア活動の充実と質の向上を図ってまいります。

## (2) 事業計画

### ア いわき市アンモナイトセンター

化石の発掘体験学習は、個人や家族を対象とした「一般体験発掘事業」を月の第三日曜日を除いた毎週土曜日・日曜日に実施し、5月の連休や8月のお盆休みにも特別に実施します。また、団体を対象とした「特別体験発掘事業」は、一般体験発掘日・第三日曜日及び休館日以外の平日に実施します。

三森溪谷・大久川流域や久之浜海岸の美しい自然・豊かな海を紹介し、自然の大切さを体験できる「親子自然探訪教室」は、第三日曜日を開催日とし毎月開催します。小・中学校の夏休み・冬休みの期間中には、アンモナイトが出現してから絶滅するまでの進化の過程、化石の掘る方法や発掘に使用する道具類、化石の研究方法などをわかりやすく紹介する「企画展」を開催します。また、地学教育の普及と全国に誇れる化石の産出地である当施設を地元小・中学生及び市民の皆様にも広めるべく、8月に「第7回公開シンポジウム」を開催します。

更には、本格的ボランティア団体を設立し、地域とのさらなる連携を図るとともに、交流を深めながら地学教育の普及と当センターのPRに努め、入館者の増を図ります。

### イ いわき市考古資料館

企画展は、「金冠塚古墳と勿来地区の飛鳥時代展」「写真で綴るいわきの文化財展」「平成22年度発掘速報展」およびミニ企画展「ざ・うさぎ展」の計4回開催します。「金冠塚古墳と勿来地区の飛鳥時代展」は、県立博物館との共催展で、昭和25・28年度に発掘され県立博物館収蔵となっている金冠塚古墳出土資料と当館が収蔵する勿来地区の資料を展示し、勿来地区の飛鳥時代を探っていきます。金冠塚古墳出土資料は、いわきへ57年ぶりの里帰りとなるものです。シリーズ企画として昨年度からはじまった「写真で綴るいわきの文化財展」。平成22年度は国・県・市指定文化財のうち彫刻・工芸79点に焦点をあてます。各企画展ともに、より内容を理解いただくために講演

会、展示解説会、見学会などをあわせて開催します。

講座は、「中田横穴青空講座」を含め5講座を開催します。「竪穴住居をつくろう」は、市内の親子10組を公募し、復元住居の萱の葺き替えを行うものです。夏休みの児童に人気の「自由研究に挑戦しよう!」、「写真で綴るいわきの文化財展」にあわせ開催する「指定文化財見学会」、質の高いボランティアを養成する「ボランティア養成講座」などです。

体験学習会は、「GW体験学習会」「夏休み体験学習会」「古代まつり」を各2日の計6回、「勾玉づくり体験会」を夏・冬休みあわせて11回の計17回開催します。また、学校などからの要請により開催する出前講座、歴史に関する問い合わせや資料の貸出しなどのレファレンスなどについても、積極的に対応してまいります。

#### ウ いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

文学館では、企画展を春に「生誕百年記念 草野天平展」、夏に「井上ひさし展」、秋に「草野心平と石展」の計3回開催し、その企画展に関連する講演会などの催しを行います。また、生誕月スポット展として、「吉野せい」「猪狩満直」「草野天平」「三野混沌」、さらに地域文学者の紹介展として「佐藤武弘」「藁谷達」のスポット展示をします。

春の企画展「生誕百年記念 草野天平展」では、それぞれ独特の詩世界をもっていた民平・心平・天平の草野三兄弟の末弟、天平の内的宇宙を紹介するとともに、平成10年度開催の「草野天平展」以降に新たに発見された資料を紹介します。夏の「井上ひさし展」は、現代社会への様々な問いを奇想天外な着想とユーモアがあふれる井上ワールドで表した『吉里吉里人』の世界を再発見していただくために開催します。仙台文学館の「井上ひさし展 吉里吉里国再発見」の巡回展で、自筆原稿・年表・プロットと吉里吉里国再現セットにて紹介します。秋の「草野心平と石展」では、コレクションの趣味などない草野心平が、ただ一つ集めた名もなき石ころたちと、「石」をモチーフとした心平の言葉で、心平の共生感を紹介します。

催しは、「文学散歩」「詩作講座」「サマーナイトのコンサート」「絵本の読み聞かせ」を継続します。

また、新たに緊急雇用創出基金事業文学資料データベース作成事業を実施します。

草野心平生家では、催しとしては、心平誕生日の市民朗読会、カエルの折り紙作り、子どもじゃんがら念仏踊り、心平忌・心平を語る会、天平の集いを行います。また、来館者に親切・丁寧な案内に努め、親しまれる運営を進めてまいります。

## エ いわき市暮らしの伝承郷

企画展は、7～8月にかけて「磐城平城下の町」と題し、市指定有形文化財「磐城平城下絵図」を筆頭とする絵図類、内藤家文書や市内に所在する近世文書などを展示します。城下町平の各町内の職業や人口をはじめ、火消し組や町に関する取り決めまでも含めて町民の暮らしぶりを分析します。11月には「墨彩画で描く『いわき』 - 西島雅博の世界 - 」を開催します。本展では、いわき出身の画家、西島雅博氏が描く獅子舞や祭り、中釜戸の枝垂れ紅葉、小名浜港、漁労、伝承郷古民家などの絵画や書により、いわきを伝承する世界を演出します。関連行事として「墨彩画の制作実演と講義」「書（大字）作品の制作実演」を開催します。2～3月には「炭鉱（やま）への想い - 菊地正男絵画展 - 」を開催します。昭和20～30年代に常磐炭田で働きながら油絵に取り組み、現在は東京で活動している画家菊地正男氏が描く、炭鉱で働き、生活する人々を題材とした作品を展示し、地域産業の軌跡を振り返ります。特別展は、12～1月に「～写真で巡る～鹿島町久保といわき市内の磨崖仏」を開催し、鹿島町久保に所在する磨崖仏を歴史・民俗の両面から分析します。

講演会は、石井克生氏を講師に迎え、「日本民俗学講座『暮らしの伝承を学ぼう！』」を5回にわたり開催します。また、平成21年度も開催した館長講座も前期・後期合わせて計20回開催します。

体験事業は、技術の伝承や伝統に親しむための体験学習を、四季折々の特色や年中行事的な要素も織り交ぜながら数多く開催します。「キッズ民話語りの会」は例年通り8月と2月に開催し、それに向けて第16・17期語り部教室の受講生を募ります。また、現代社会では見られなくなった年中行事を再現する「伝承郷行事」もこれまで以上に内容と広報の充実を図ってまいります。

ボランティア育成事業は、ボランティアの資質向上のため、移築民家旧所在地または市外の古民家移築施設の見学を実施します。

企画展示室の使用有料化2年目に対応して、利用者にとってできるだけ使い勝手の良いよう、相互理解を図り、スムーズな運営に努めてまいります。

なお、事業全体に関する市民への広報については、ホームページの充実やメディアへの情報提供の拡充を行い、周知の向上を図り、またアンケートや事業懇談会の意見を取り入れ、自己評価を行いつつ、適正な市民へのサービス提供に努めてまいります。

## オ いわき市生涯学習プラザ

平成22年度は開館9年目を迎え、利用者は130万人に達します。生涯学習プラザを利用する団体やサークルの活動は年々活発化しており、社会教育関係団体の登録数は70団体を超えております。これらの団体及びボランティアの活動の輪をひろげ、多様化する市民の生涯学習意欲に応えて参りたいと考えます。

特に、平成21年度から新たに取り組んだ、市内の小・中学校の「生活科」や「総合的な学習の時間」の中で児童・生徒がサークル活動に参加し、会員とのコミュニケーションを深めながらいろいろな体験を試みる企画や、一般市民を対象としてサークルが運営実施する各種体験プログラムを充実させたいと考えます。また、ITボランティアリーダーによる身近なPC講座や遊びと憩いの広場などを活用した子育てボランティアによる「子どもと遊ぼう」などのさまざまな企画も市民から高い評価を得ており、引き続き実施して参ります。

さらに、共催事業として(社)茶道裏千家淡交会いわき支部との「ふだん着のお茶会」、いわき華道連合会との「諸流いけばな展」、いわき明星大学との「公開講座」などに加えて、新たに公民館との共催による講座「いわき再発見 地域編」を開催し、地域の特色ある新しいプログラムを提供して参ります。

このように、平成22年度はボランティア参加事業を充実し、関係機関との共催事業を拡充するとともに、現代的課題に関する講座や市民ニーズの高い講座など約40講座をさまざまな視点から積極的に開催します。さらに、いわきヒューマンカレッジ(市民大学)や生涯学習フェスティバルなどを通して、全市的な市民の交流を深めながら、更なる生涯学習の推進につなげて参ります。ただ、ITサポートセンター事業は、メーカーによるサポート等の充実もあり、平成21年度末をもって廃止となりました。今後はパソコンに関する講座の中で対応してまいります。

また、情報紙「プラザだより」の発行やホームページを通して情報を発信・提供するとともに、利用者懇談会やアンケート調査によって利用者のニーズを的確に把握し、市民の目線に立った効率的かつ効果的な管理運営に努めて参ります。

### 3 出版事業

#### (1) 基本方針

既刊の調査報告書や展示図録などの出版図書については、ホームページでの案内及び学会や研究会などへ出向くなど、一層販売の促進にあたり、在庫本の一層に努めてまいります。また、新たに職員が一丸となり、当財団が有する各分野の専門性の活用を図った小学校社会教科書の副読本を刊行・頒布します。

#### (2) 事業計画

文化財部門では、既刊調査報告書の頒布をします。施設部門では、暮らしの伝承郷が『旧樋口家住宅移築・復元工事報告書』など既刊の5冊子、草野心平記念文学館では『武井武夫』など既刊の5冊子を頒布します。また、小学校社会教科書の副読本として刊行する「仮称みんなで学ぼうふるさといわき」を頒布します。

### 4 普及活用事業

#### (1) 基本方針

当財団と職員の有する専門的な知識を、学校を除く公民館などの機関へ有償提供し、事業団の専門性を市民の方々にアピールするとともに、収益を図ってまいります。

#### (2) 事業計画

事務局においては、「いわきの歴史」や「地域の歴史」などの講座及び勾玉づくりや八ニワづくりなどの体験、施設においては、各施設の独自性・専門性を踏まえたメニューを作成し、積極的に事業を展開しています。

### 5 研 修

#### (1) 基本方針

利用者への「安全・安心の確保」、「満足いただけるサービスの提供」、「質の高い専門性の提供」などの一層の向上を図ってまいります。

特に、22年度は研修の充実を図り、当財団の有する質の高い専門性と接遇の向上および関係資格の取得に努めてまいります。

## ( 2 ) 事業計画

「安全・安心の確保」のため、安全講習会へ積極的に参加するとともに、安全資格などの取得に努めてまいります。「満足いただけるサービスの提供」のため、各種研修を開催するとともに参加し関係資格を取得するなど、接遇の向上に努めてまいります。「質の高い専門性の提供」のため、学会・セミナー・シンポジウムなどへ参加を推進し、職員個々の専門性を高めるとともに、関係資格の取得に努めてまいります。

## 6 啓発広報事業

### ( 1 ) 基本方針

地域に出向いての企画展や指定管理者施設での共同企画展の開催などを通して、施設利用者数の増加も含め事業団の専門性を市民の方々にアピールしてまいります。また、文化財・施設部門ともに、多くの情報を市民のみなさまに提供してまいります。

### ( 2 ) 事業計画

文化財部門においては、考古資料館「発掘速報展」での発掘調査で得られた成果発表のほか、遺跡の所在する地元で「特別展」を開催するなど、地域の皆様に地元の重厚な歴史を知っていただきます。

施設部門においては、入館者の減少する冬場に、当財団がいわき市から指定管理者の指定を受け管理運営している教育文化5施設で、共通のテーマでの「共同企画展」を開催します。また、ホームページは、市民ニーズを踏まえながら、内容の充実を図るとともに更新回数が増に努めてまいります。

## 7 職員に関する事項

平成22年1月1日現在

### (1) 事務局

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	事務局長	事務局次長	係長 主任研究員	副主任研究員	事務主任	主事 研究員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
事務局	1(1)	2(1)	-	-	-	-	-	-	3(2)
企画管理係	-	-	1	-	-	1	-	1	3
調査第一係	-	-	3	1	-	-	-	-	4
調査第二係	-	-	1	1	-	-	-	44	46
計	1(1)	2(1)	4	3	-	1	-	45	56(2)

### (2) 施設

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	館長 所長	副館長 専門学芸員	アンモ副所長 係長 主任研究員 主任学芸員	主査 副主任研究員 副主任学芸員	事務主任 学芸員	主事	嘱託職員	日々雇 用職員	計
アンモナイト センター	1	-	1	-	-	-	-	1	3
考古資料館	(1)	-	(2)	(1)	-	(1)	-	-	(5)
文学館	1	2	-	2	-	-	-	2	7
伝承郷	1	-	-	1	1	-	3	1	7
生涯学習 プラザ	1	1	1	2	-	1	-	7	13
計	4(1)	3	2(2)	5(1)	1	1(1)	3	11	30(5)

合計	5(2)	5(1)	6(2)	8(1)	1	2(1)	3	56	86(7)
----	------	------	------	------	---	------	---	----	-------



# 収 支 予 算 書



議案第4号関係

平成22年度財団法人いわき市教育文化事業団収支予算について

平成22年度財団法人いわき市教育文化事業団収支予算

( 総 括 表 )

( 単位千円 )

科 目	予算額	前年度予算額	増減
< 事業活動収支の部 >			
事業活動収入			
1 基本財産運用収入	140	116	24
2 事業収入	435,059	428,165	6,894
3 寄付金収入	1	1	0
4 雑収入	1,659	1,837	178
事業活動収入計(ア)	436,859	430,119	6,740
事業活動支出			
1 事業費支出	419,965	420,783	818
2 管理費支出	20,184	19,860	324
事業活動支出計(イ)	440,149	440,643	494
事業活動収支差額(ア-イ=ウ)	3,290	10,524	7,234
< 投資活動収支の部 >			
投資活動収入			
投資活動収入計(エ)	0	0	0
投資活動支出			
1 固定資産取得支出	410	410	0
投資活動支出計(オ)	410	410	0
投資活動収支差額(エ-オ=カ)	410	410	0
< 財務活動収支の部 >			
財務活動収入			
財務活動収入計(キ)	0	0	0
財務活動支出			
財務活動支出計(ク)	0	0	0
財務活動収支差額(キ-ク=ケ)	0	0	0
< 予備費の部 >			
予備費			
1 予備費 (コ)	300	140	160
当期収支差額(ウ+カ+ケ-コ=サ)	4,000	11,074	7,074
前期繰越収支差額(シ)	30,986	42,060	11,074
次期繰越収支差額(サ+シ=ス)	26,986	30,986	4,000